

県畜産共進会・種牛の部 4区で1席!

58頭の種牛を審査
骨格や毛並み評価

高山で共進会

繁殖用雌牛の成育を審査する第23回県畜産共進会・種牛の部が12日、高山市冬頭町の飛騨家畜流通センターであった。県内の農家が58頭を出品し、月齢別などに分けて骨格や毛並みを確かめた。

全国和牛登録協会県支部が、生産技術向上のため開催。生後14～17カ月の1区、17～24カ月の2区、14～24カ月で父牛が2013年10月生まれ以降の県有種



骨格や毛並みを審査される和牛―高山市冬頭町で

の3区、1産以上した4区などを審査した。

3区の品評は3年後に北海道である全国共進会の出場を見据え、県畜産研究所職員らが、あばらの張りや筋肉の付き具合を厳格に見定めた。審査した同研究所の安達広通さんは「繁殖性に優れた最前線で活躍する牛になっていくと思う」と評した。(平田志苑)

◇主な上位成績の皆さん

▽名誉賞 えるさ 荒川大悟
(高山市丹生川町)▽1区1席
ゆい17 藤瀬肉牛農場(同市清見町)▽2区同 えるさ 荒川大悟
(同市丹生川町)▽3区同 はなさん2 藤瀬肉牛農場(同市清見町)▽4区同 とももあおは 飛騨高山高校(同市山田町)